



◆ 本校の位置及び鳴瀬川の概要

- 流域面積：1,130km²
- 幹川流路延長：89km
- 流域内人口（H12現況調査）：175千人

鳴瀬川流域は、宮城県の中北部に位置し、宮城県有数の穀倉地帯「大崎耕土」を抱えている。鳴瀬川本川は、その源を宮城・山形県境の船形山（標高1,130m）に発し、奥羽山脈の山水を集めて東流し、田川、花川等を合わせ古川市付近で多田川及び人工河川である新江合川を合わせて大崎平野を貫流し、河口付近で吉田川を合流させ太平洋に注ぐ一級河川。
国土交通省HPより抜粋



第1・2学年生活科 第3～6学年総合的な学習の時間

他教科や行事での取組

平成26年 9月 野草を植えよう

堤防に生息している在来種の苗を調べたり植えたりする活動を通して、堤防の植生に興味をもつとともに、故郷の自然を守ろうとする意識を高める。

東洋大学教授根元正之氏と共に活動

オミナエシの種子を採取

堤防周辺や校庭へ種子をまく



平成26年 9月 水辺の楽校 よいとこ探し

鳴瀬川の写真を撮り、作品展へ出展する活動を通して、故郷のよさを発信する意義を理解するとともに、故郷を愛する心を育てる。

校長先生がよさについて講義

カメラマン土谷英二氏と活動

カメラを持って鳴瀬川へ向かう



平成27年 10月 水辺クリーン作戦

鳴瀬川の河川敷の清掃活動を通して、生活ゴミ等が自然体系へ与える影響を知るとともに、故郷の自然を守るために自分たちができることを考える。

雷雨の後は大きな漂流物が多い

大小様々なゴミを拾い集める

気付いたことや考えたことを発表



平成27年 12月～ サケとサクラマスを鳴瀬川に放流しよう

サケ・マスの稚魚を育て鳴瀬川に放流する活動を通して、自然環境を守る大切さを知るとともに、鳴瀬川や故郷を愛する心を育てる。

鳴瀬川上流のふ化場見学

サケ・マスの稚魚と出会う

稚魚の観察



5月 ◆ 草花遊び

ものづくりクラブの活動として、鳴瀬川河川敷に生息している、シロツメグサ等の春の草花を使って髪飾りやネックレスを創る活動を行う。



9月 ◆ カヌー体験

全学年合同でカヌー体験を行う。5・6年生は1・2年生を乗せてカヌーを進める。震災後はプールでの実施になっているが、平成28年度からは鳴瀬川での活動へ戻す予定である。（平成27年大雨のため中止）



9月 ◆ おおさきエコアクション

ツバドリ環境名誉大使としても活動されている、写真家遠藤秀一氏を迎え、環境問題について講義をいただいた。環境問題について視野を広げるとともに、身近な自然環境を守る大切さを再認識することができた。



10月 ◆ 水辺クリーン作戦

毎年、持久走記録会で河川敷を走る前に清掃活動を行っている。高学年になるにつれて、地域の自然を守るための役割を自覚する姿が見られる。次年度は、7月7日川の日に実施する予定である。



10月 ◆ 水辺の持久走記録会

鳴瀬川河川敷（水辺の楽校）や堤防を体育科の授業で活用して持久走を行う。心地よいペースで走ったり、記録向上を目指したりするなど、身近な自然を楽しみながら、生涯スポーツの基礎を培う。



1月 ◆ そり遊び

雪が降ると、堤防が自然のゲレンデになるため、毎年そり遊びを楽しむことができる。自然と触れ合って遊ぶ楽しさを体得することができる。



3月 ◆ サケ・マスの放流

3・4年生がふ化場から持ち帰った卵を育て、3月に全校児童が保護者、地域の方々とともに放流する。稚魚を育てることで、生命の大切さを学ぶことができる貴重な体験である。

